

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC NEWS No.116 号を発行

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇私のアメダス巡礼の1ファイル 千葉県我孫子アメダス

気象予報士・防災士 水越 祐一

■トピックス

◇PVC NEWS No.116 号を発行

塩化ビニル環境対策協議会

塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、7月14日に [PVC News No.116](#) 号を発行しました。今号の特集は「持続可能性と塩ビ」がテーマです。近年注目が集まっているバイオマスマーク認定制度について事務局を運営している([一社）日本有機資源協会](#)に訪問し、牛久保明邦会長(東京農業大学名誉教授)にお話を伺いました。また、バイオマスを活用したシュリンクフィルムや海洋汚染防止に貢献するマリンフロート防散カバーの開発などについてインタビュー記事を紹介しています。

牛久保会長は、(一社)日本有機資源協会発足当初からバイオマスの有効活用の普及・推進に尽力されてきました。バイオマスマークの導入は、商品の差別化、消費者への環境意識のアピールなどのメリットが挙げられます。一方で、環境意識への機運が高まっていることから、バイオマスマークが正しく運用され、信頼される制度に向けてバイオマス度の検査体制を充実していることなども話していただきました。バイオマスマーク認定制度は2006年に本格運用を開始し、登録数は2018年頃から増加傾向にあって、2021年には1,408件になりました。物流・包装分野の登録が多くなっていますが、今後バイオマスプラスチックも増えると予想されています。



特集インタビューの一つ目は、PVCシュリンクフィルムを手掛けているサンプラスチック(株)(栃木県)を取材し、自社の技術を生かした新たなものづくりについて伺いました。デンプン由来のバイオマスを採用したシュリンクフィルムの開発は挑戦的なテーマで、様々な課題に直面し、例えば植物由来材料の取扱いなど製造工程の管理に苦労したと話しています。

二つ目は、土のうやコンテナバッグなどシート加工を中心に事業展開している(有)広谷商店(岡山県)が取り組んでいる、海における環境課題解決について紹介しています。その一つが「船底シート」で、プレジャーボートの船底にフジツボなどが付着するのを防止するもので、3,500 隻以上の実績があります。これを展開している中で海洋汚染防止に貢献する「マリンフロート防散カバー」を着想したとのこと。カバーを固定する留め具にも興味深い工夫の跡がうかがえます。

三つ目は、2022年5月23日付で関連4団体が統合し新たな組織として発足した「塩化ビニル管・継手協会」について、鈴木謙次郎専務理事に新体制における取り組みや方針など伺いました。地震や集中豪雨など自然災害への対応、CO2排出抑制など環境負荷低減、マテリアルリサイクルの推進、無電柱化の推進、といった様々な社会課題解決について話していただきました。

次に“リサイクルの現場から”では、プラスチックの廃材収集から再生製品の製造まで幅広く事業展開している新洋(株)のつくば工場を訪問し、再生塩ビ管製造にかける思いについて話していただきました。現在国内では再生塩ビ管の製造業者が少なくなった中で同社には期待が寄せられています。

“インフォメーション”では、地下足袋づくりにおいて伝統があり、近年はPVCを活用したフットウェアづくりにも積極的に取り組んでいる(株)丸五(岡山県)を取材し紹介しています。PVC製防水シューズは以前から販売していますが、子ども向け防水シューズ「ランランRain」の開発では子供の足のサイズ測定から履き具合など、子どもたち(ユーザー)に向き合いながら丁寧なものづくりを大切にしている同社の基本姿勢がうかがえます。

“広報だより”では、日本テントシート工業組合連合会青年部会による「テントアワード2021」の受賞作品を紹介しています。最近では、オーニングやシェードなど日除け用途に対して応募が増える傾向にあり、力作が集まっています。この分野は脱炭素社会の貢献に期待が寄せられています。

PVC ニュースのご講読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

info@vec.gr.jp

◇私のアメダス巡礼の1ファイル 千葉県我孫子アメダス

気象予報士・防災士 水越 祐一

「アメダス」という言葉は、天気予報でもよく登場するのでご存じの方も多いと思います。気温や降水量、風向風速などを自動で観測する測器のことで、降水量を観測している観測所は全国で約 1,300 か所、このうち約 840 か所では降水量に加えて気温、風向風速、湿度を観測していて、雪の多い地方の約 330 か所では積雪も観測しています。アメダスは、「Automated Meteorological Data Acquisition System」の略ですが、そのまま頭文字を取ると「AMDAS」になるところをあえて「AMeDAS（アメダス）」としたところにセンスを感じますね。私たち気象を生業としている人々の中には、「アメダス巡礼」と言って各地のアメダスを見学して回ることを趣味にしている人が少なからずいます。中には全国を行脚しているつわものもいます。私はそこまで熱心な巡礼者ではありませんが、地方に出張に行った時など、つい足を延ばして観測所の見学に行ってしまう。今回はそんな私のコレクションから、1つのアメダスをご紹介します。

今回ご紹介するのは、千葉県にある「我孫子アメダス」です。高い鉄塔には、地上から高さ 10 メートルに風向風速計が設置されています。気温計は、細い金属製の筒の中にあつて、ファンが回って常に外の空気を取り入れています。同じく金属の筒に囲まれているのは雨量計で、雪やあられを溶かすためにヒーターがついています。こんなものを見て喜ぶのは気象関係者だけかもしれませんが、ちょっと興味深いと思ったのは、この我孫子アメダスが設置されている場所は公園の一角で、看板を見ると「气象台記念公園」と言うそうなのです。



我孫子アメダス全景



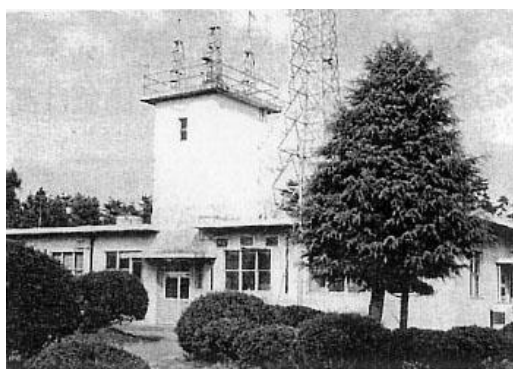
気温計



雨量計



「气象台記念公園」の看板が

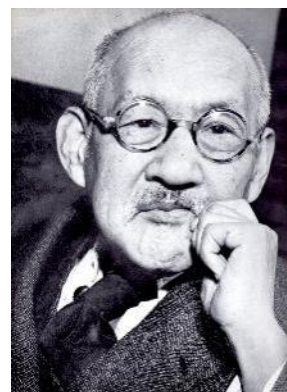


我孫子にあった「气象台送信所」
(出典：千葉県教育委員会)

なぜ「气象台記念公園」と名付けられたのか、その由来を調べてみました。この場所には 1938 年（昭和 13 年）に「气象台送信所」という施設が建てられました。すでに日中戦争が始まっていて、気象情報は機密事項になっていました。气象台送信所は、空爆にあつても耐えられるように設計・施

工されていたそうです。

では、なぜ我孫子にその重要な気象送信所が建てられたのか、そこには日本の気象の歴史の重要人物が浮かび上がってきます。「日本気象学の父」とも言われる第4代中央気象台長・岡田武松氏です。岡田氏の偉業の一端を知るエピソードとして、1905年（明治38年）の日本海海戦当日の天気予報を出したのが当時中央課長だった岡田氏です。この日の天気は、連合艦隊からの有名な電文「本日天気晴朗なれ共波高し」として知られていますが、この元になったのが岡田氏の発信した天気予報「天気晴朗なるも浪高かるべし」と言われています。岡田氏が我孫子市の出身で、ここに土地を探して施設を設立することに尽力したそうです。



岡田武松氏
(出典：気象大学校)

気象送信所は1999年（平成13年）に廃止され、その跡地が公園として整備されました。アメダス巡礼をしていると、たまに「つわものどもが夢の跡」のような歴史に触れることができるのも魅力の一つです。

■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp